

○按ズルニ、此圖ニ、耳筒トアルハ、耳筒ノ誤ニシテ、而シテ伊勢家所傳馬書ニハ山間ヲ兩耳ノ間ト爲セリ、

〔今川大雙紙〕下馬に付て式法之事

一馬上の人に鞭渡次第鞭を右に持かたぬるやうにして、左の方の七寸を左の手に而取り、天松原のとをりをさしこし渡す也、

〔一騎前意得〕中長乗様第二

鱸足ツク内ハタチカ、ル故鞍ニタマリ難シ、小松原ヲ持テ水ヘオシコメバ、馬ソクキリオヨギ出ス、

〔平家物語〕四橋合戦の事

あしか、大音じやうをあげて、よはき馬をばしたてに立よ、つよき馬をば上手になせ、中水しとまば、三頭の上にのりか、略、下

〔太平記〕二十五住吉合戦事

山名伊豆守ハ我身深手ヲ負ノミナラズ、馬ノ三頭ヲ二太刀切ラレテ、馬ハ弱リス、

〔太平記〕二十九小清水合戦事附瑞夢事

河津左衛門略、敵ノ群リタル中へ、會尺モナク懸入ント、一段高キ岸ノ上へ懸ケル處ニ、十方ヨリ鏃ヲ汰テ射ケル矢ニ、馬ノ平頸草ワキ、弓手ノ小ガイナ、右ノ膝口、四所マデ、篋深ニ射ラレテ、馬ハ小ヒザヲ折テドウト臥ス、

〔尺素往來〕凡葦毛、青雲雀毛者木性之馬、鹿毛、栗毛者火性之馬、糟毛、駁者土性之馬、目、鶴、毛、皆、色、者金性之馬、黑毛、瓦毛者水性之馬、俱自奥州閉伊郡到來、

〔本朝食鑑〕十一馬

馬毛色